

## 最低限で最も重要な条件

先日、ある生徒の何気ない姿が目にとまりました。だれの、どんな姿かはここではあえて言及しませんが、その生徒の置かれた立場を考えた時に、「あつてはならない姿」であったことは確かです。気付いたのは私だけでしたので、後でそつとその生徒を校長室に招いて話をしました。

叱つたつもりは毛頭ありません。何度も言っているように、中学校は社会に出るためにいろいろ学ぶところと考えるからです。その生徒が見せた姿がどんな意味をもっているのかを教えたくもありません。その生徒は神妙な顔をしてやってきましたが、校長室を出る時には、大切なことを教えてもらったという真剣な表情をしていました。こういうことを経験して、社会に出る時の大きな力を身に付けていってほしいものです。

私は今年度で校長六年目です。「長」と付く立場に立つと決まった時は、うれしさよりも身が引き締まる思いでした。教頭という立場も経験しましたが、その時とは違う、何か大きなものが自分にかかってくるような感覚がありました。それが、「リーダーとしての重責」です。

リーダーとは、何か大きなことを成し遂げたり、高く評価されるような業績を残したりするだけがその役目ではありません。むしろ、それよりも、人の上に立つにふさわしい言動を常に心がけることが大切です。そして、自分に付いてきてくれる人たちの信頼を集めることが、リーダーとして真つ先にやるべきことだと思います。

「時間を守ること」「整理整頓すること」「相手を不快にさせないこと」「約束やきまりを守ること」「疑問や不信を抱かせない言動をすること」……日常の当たり前のことを当たり前にこなすことが、リーダーとしての最低限で重要な条件です。人に後ろ指を指されるような姿があるうちは、まだまだリーダーになり切れず、ないということなのです。

大人もある意味において、子どもたちのリーダーであるべきですよね。しかし、残念なことに、大人の中には、不信感を募らせる言動をする人や世間からバッシングを受けるリーダーがいます。嘆かわしく、腹立たしいことです。皆さんもやがては大人になります。その時に、皆さんにはリーダー、いや、大人として子どもたちの信頼を集められるようになってほしいと私は強く思っています。

北中の生徒は一人一役(担当)として取り組んでいます。担当である以上、その担当において人の上に立たなければなりません。今のあるあなたは、人の上に立つのにふさわしい人物になっていますか。

「あの子に喜んで協力したい」と周りが思ってくれるリーダーになっていますか。一度深く自分を見つめ直してみてください。それを学ぶのが中学校なのですからね。

(十二月八日記)